

## 第 11 回日本園芸療法学会大阪大会終了のご報告と御礼

平成 30 年 11 月 24 日（土）・25 日（日）の会期で、大阪河崎リハビリテーション大学におきまして第 11 回日本園芸療法学会大阪大会を開催しました。紅葉の美しい秋晴れの中、学会に 188 名、市民公開講座に 96 名、合計 284 名の方々に参加していただき、盛会のうちに無事終了することができました。これもひとえに本学会会員の皆様、ご参加いただきました皆様、理事、講師、シンポジスト、座長の先生方、さらに本学会に御後援いただきました大阪府貝塚市・貝塚市教育委員会をはじめとする 9 団体様、ご支援・ご協力いただきました協賛施設・企業 32 団体様のお力添えのおかげと実行委員一同、感謝申し上げます。

今年度の大会テーマは、『園芸療法 これまでの 10 年これからの 10 年』と提案され、園芸療法に携わる実践者・研究者が集い、参加型シンポジウムを軸に、みんなで考える大会を目指しました。研究発表については、口述発表 17 題、ポスター発表 9 題、合計 26 題が発表されました。日本の超高齢社会を背景に、多くの高齢者を対象とした園芸療法の実践について症例報告がありました。また、実践の中で見出された「植物」「庭」「園芸作業」の位置づけや意味を明らかにする研究も散見されました。

基調講演は、山根 寛先生（「ひとと作業・生活」研究会主宰）が「園芸療法 これまでの 10 年これからの 10 年」というタイトルで、学会設立から今までを振り返り、この先も療法として求められてくる園芸、園芸療法学会の役割、学会が抱える課題について提言されました。

教育講演は、松尾英輔先生（九州大学名誉教授）が「園芸療法（植物介在療法）の基礎 — 私たちを魅了する植物とのかかわり」について講演していただき、園芸療法の実践者らが行う『園芸活動』の源となる「植物とは切り離せない人間の生活」「人間と植物の関係」について振り返り、確認する機会となりました。

市民公開講座では、「脳のお話～認知症と園芸」というテーマで、本学の亀井一郎学長に、認知症と認知症予防、園芸を含む代替補完療法の紹介等、脳の働きを通して講演していただきました。

シンポジウムは、1 日目「日本園芸療法学会の歩みと展望」として日本園芸療法学会の理事 5 名、2 日目は「園芸療法を実践して～これから私が目指すこと～」として関西で園芸療法を実践している園芸療法士 4 名がシンポジストになり、各々が講演し、その後は会場の参加者と意見交換を行いました。意見交換の中では、園芸療法に関わる人たちが本学会を通じて、課題を共有しました。解決していくためには自分たちが連携していないといけないことも、積極的に声をあげて行動していないといけないことも確認できたと思います。年に 1 回の学会ですが、学会を通じてお互いが刺激を受け、明日からの自分の活動に自信を持って取り組んでいただければ幸いです。

学会期間中は、至らぬ点、ご不満の点もあったかもしれませんが、何卒ご容赦下さいますようお願い申し上げます。

最後に、学会員の皆様、ご参加いただきました皆様、本学会に御後援・ご協力いただきました団体様各位のこれからの益々のご発展とご活躍、ご多幸を祈念して御礼の挨拶とさせていただきます。

2018 年 11 月 30 日

第 11 回日本園芸療法学会大阪大会

会長 河崎 建人

大阪河崎リハビリテーション大学 理事長